

■ 自由投稿「故、鴨志田君の追悼企画の報告」

津江（22期）、寺島（22期）

昨年1月に逝去した22期の鴨志田君の追悼文は、その3ヶ月後の4月発行のOB会報No.56号にて掲載させて頂いたところです。あれからちょうど1年が経ち、今年の1月には同期有志で追悼企画を行いましたので、このOB会報の場を借りて報告をさせて頂きたいと思います。

追悼企画に際しては奥様（24期）とも相談しまして、ここは「ただ皆で集まったの追悼会（飲み会）だけでは面白くない」、「やはり鴨志田らしい企画、そうだ山行にしよう」となりました。そして昨年12月には皆に下記のような案内状を送付しました。

【故、鴨志田君の追悼企画のお知らせ】

早いもので鴨志田君が逝去されて1年が経とうとしております。

ご存知のとおり、故人は病気療養中でも機会をみて丹沢に足を運んでは、山の風景の中に身を置いていました。そんな故人を偲びつつ、奥様もお誘いして、下記のとおり追悼の企画を行いたいと思いますので、ご都合のつく方にご参加ください。（注記：主に22期～24期を中心に声掛けしております）

22期有志（浅沼、津江、寺島）

<追悼企画（その①）【丹沢バカ尾根での追悼登山】>

- 日付：平成27年1月11日（日）
行き先：丹沢大倉尾根（通称「バカ尾根」）往復（出来れば「塔ノ岳」に登頂）
集合場所：大倉バス停8時45分頃【小田急渋沢駅8時20分発の大倉行バスに乗車すること】
行程案：大倉発（9時）⇒小草平（11時）⇒塔ノ岳着（12時30分着：昼食）
⇒同発（13時15分）⇒大倉着（15時30分）【実働約6時間／高低差1200m】
持ち物：登山できる服装（装備）、弁当、飲み物、雨具、防寒具、その他必要なもの
注意事項：①丹沢とはいえ厳冬期です。降雪の可能性もあり、無理せず引き返します。
②厳冬期の登山に相応しい装備を各自で用意してください。
③天候不順の際には中止にします。事前に連絡先等を確認し合しましょう。
④久しぶりの登山になる方は、トレーニングなど充分にお願いします。

<追悼企画（その②）【追悼会（＝飲み会）】>

- 日時：平成27年1月11日（日） 18時ごろ開始
場所：小田急線、相鉄線「海老名駅」周辺の飲食店【未定：決まり次第連絡します】
⇒追悼登山（企画その①）を終えた方は、渋沢から海老名に移動して集合。
⇒追悼会（企画その②）だけに出席する方は各自で現地集合。
注意事項：飲み過ぎには注意しましょう。 以上

この声掛けに応じてくれたのは総勢13名（その①参加は9名、その②のみ参加は4名）でして、新年早々の連休の中日にも係わらず多くの方に参加して頂き、また天候にも恵まれ（山頂付近にも降雪もなく）無事に行うことが出来ました。

その4日後の1月15日の晩には、何事にもマメ(?)な津江から、参加者全員へのお礼と、参加出来なかった同期への報告も兼ねて下記のような報告メールが送信されました。皆さんご存知の津江の人柄を感じさせる人情味ある文章ですので、原文のままここに掲載させて頂き、まずはこの企画の報告とさせて頂きたいと思います。（括弧内の斜字体のみ今回追記）

Subject: 1月11日第1回鴨志田記念登山&飲み会【断片的な報告&写真】

From: 津江 / To: 24期の奥様&文ちゃん/22期の皆さん/23期木村さん/24期上野さん

1月11日(日)の第1回鴨志田記念登山&飲み会の断片的な報告と写真を添付します。

おそらく、寺島がきっちりした詳細報告を送ってくれると思いますが、津江スマホ写真と断片的な報告です。

前日の昼ごろ、富山の高岡にいる立浪から「雪が大丈夫だったら、明日、最初だけ参加する」との電話があり、当日には相鉄の横浜駅で待ち合わせて、二人で渋谷駅に向きました。(参加メンバーには誰にも教えず)

下車した渋谷駅がとても大きくなってびっくりで、バス乗り場で待っていた浅沼、寺島夫妻、鴨志田親子と合流しましたが、立浪の登場には、皆、びっくりです。大倉のバス停付近も、30数年振りに来てみると大変きれいになっており、車で来ていた谷内、上野と一緒に、二人も立浪にびっくりでした。



写真① 大倉高原山の家

立浪は、皆と一緒に大倉高原山の家まで約45分歩き、そこで皆と写真を撮って帰りました。(写真①)その後、立浪は、同期の山崎と横浜駅周辺で食事をして富山に帰りました。飛行機が途中で引き返す可能性があったようです。とにかく、立浪、サプライズ参加ありがとう!

まず、バカ尾根はバカに出来ない登りでした。大した荷物も背負っていないのに、還暦近い体には結構きつかったのですが、相模湾や横浜の街が遠くに見え、景色は最高でした。

塔ノ岳直前の花立山荘で、寺島夫人が無理せず待機することになりましたが、実は、津江も右ひざが心配だったので、一緒に残ってもいいと思っていたのに、立浪から錫杯を託され「頂上で献杯してくれ」とミッションを受けていたので、頂上まで行ってしまいました。頂上の直前では、何と上野が、「寺さん、浅沼さん、先に行ってください。後から行きます」とバテか

けていたことを後で聞き、第2部で酒の肴になっていました。頂上で文ちゃんが立浪から託された錫杯で飲んでいる写真です。(もっと良く撮れているものに差し替え。写真②)(山頂にて写真③)

頂上は気温4℃前後位でしたが、風が強くて寒く、すぐに下りて、寺島夫人の待つ花立山荘付近の中腹でお湯を沸かして、立浪のお土産寿司(うまかった)とカップヌードル(一部チキンラーメン)で、ワイワイガヤガヤの昼食でした。寺島の最新鋭のガスが強力で、津江の30年前のガスはなかなか沸騰しないので、寺島が自慢しながらお湯を沸かしていました。

下りでは、やはり皆、余裕が出来て、色々な話をしながら降りましたが、実は津江が一番不安だったのです。しかし谷内がストックを1本貸してくれたので、右ひざも問題なかったです。(津江がツエついて下りました:笑)

下りでは、やはり皆、余裕が出来て、色々な話をしながら降りましたが、実は津江が一番不安だったのです。しかし谷内がストックを1本貸してくれたので、右ひざも問題なかったです。(津江がツエついて下りました:笑)



写真② 錫杯で乾杯



写真③ 塔ノ岳山頂

なお翌日は、30年前に同期の故中丸の独身寮から落ちて骨折した左足かかとの古傷が痛みましたが、つき合いの長い古傷で、夕刻には治っていました。

大倉から渋沢までは上野（上野は山行のみ）と谷内の愛車で送ってもらい、18時ごろから海老名駅近くのお店で、23期木村、あっこさん、成田、山崎と一緒に、飲み放題で3時間ちょっとワイワイガヤガヤで一番うるさい客だったかもしれないです。お店の迷路のようなトイレから戻る時、隔離されたような部屋から谷内の笑い声が指標となって、皆、無事に戻っていました。

寺のウイスキーのピッチがヒートアップし、山田との掛け合いが、夫婦漫才となったため、皆でいじって楽しんでいました。雰囲気は苗名小屋の夜みたいでした。とにかくよく笑った夜です。でも、何の話をしたのか、あまり覚えていません。（これが企画その②の実態です）

（お店を出た時の）皆の集合写真は、寺が撮っているので、後で送付してくれると思いますが、一生懸命タイマーをセットしようとする寺がおかしくて、津江スマホで撮りました（くだらないので写真掲載略）。結局、成人式帰りの心優しいヤンキー集団が撮ってくれ、一緒に写真も撮っちゃいました。海老名の駅前の街が、昔と比べてとんでもなく大きくなっているのが、立浪登場の次のサプライズでした。

ま、とにかく、そんなこんな長い1日でしたが、鴨が発病後に103回登山し、そのうち半分以上が丹沢で、27回登った塔ノ岳にみんなで登って、下りて、酒飲んで、昔のように大笑い出来た一日でした（その詳細は寺から報告があると思います）。うるさくて元気なおじさん、おばさん達に終日付き合ってくれた文ちゃんに、奥様からお礼を言っておいてください。

大倉（バカ）尾根は少しハードですが、その時の体力に合わせて引き返すことも出来るし、僕らワングルの原点なので、また、今後も時々集まってチャレンジしたいと思います。女子会もやるような話も出ていました。

鴨を思い出して、そして今を楽しんで、大笑いすることはとっても健康に良かったです。こんな機会をくれた鴨に、有難うと伝えたいと思います。

津江

以上が津江からの報告でして、今回の企画の大方の様子が伺えるのではないかと思います。

ひとつだけ寺島から補足させてください。津江の報告の中にある下線部のことです。

実は、この企画の約3ヶ月前ですが、生前、鴨志田と交信していたメールを読み返しては、闘病生活の中でも山を忘れることなく、治療の合間を見ては山に行っていた彼のことが思い出され、奥さんに連絡を取って、「1回目の手術後、亡くなるまでの6年間の彼の山行実績を教えてくれないか」と相談したところ、快く引き受けてくれました。彼の残っていた山行手帳や写真の記録などを拝見しつつ、当時、自分が受け取ったメール文章と照らし合わせてみては、その時の彼の心境などに想いを馳せたりしていました。奥さんも仕事で忙しいながらも協力してくれ、「こうして調べてみることも楽しい」「こんなに山に行っていたのかと思うと、改めて感心する」とも言ってくれました。

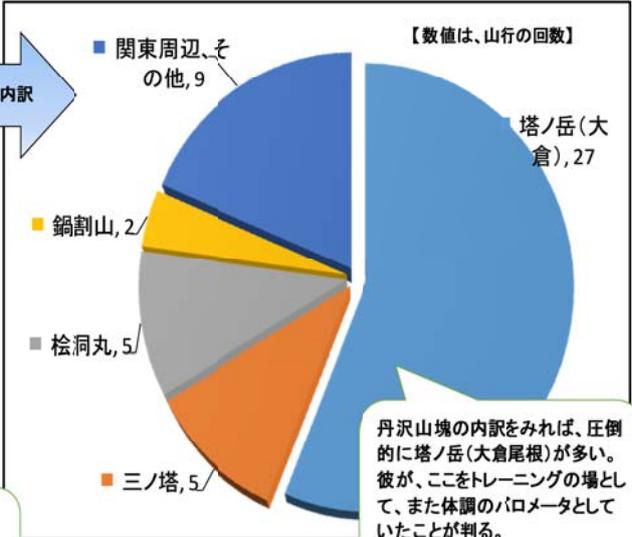
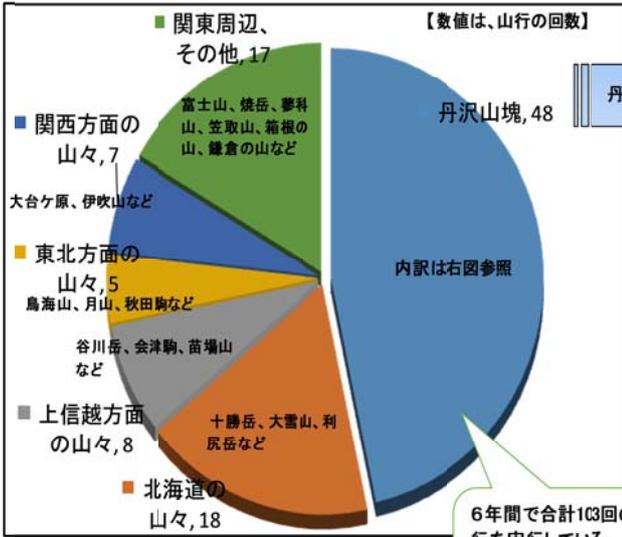
その登った山の名前や、年間の山行回数などを集計しつつ、彼が仕事や治療との兼ね合いをみながら、いつ頃に何処へ行っていたのかなど調べてみようと思って、エクセルのグラフにしてみたのが別紙です。詳しくはそちらを参照して頂きたいのですが、その実績たるや、改めて見ては感嘆です。通算103回、最多では年間29回も山に行っている。そして何よりも丹沢バカ尾根に6年間に27回も登っているのです。生前、彼が「治療中に衰えた体力を回復するトレーニングの場としても、また体調のバロメーターとしてバカ尾根はちょうど良い」と言っていたことが思い出されます。

そういえば、我々同期が鴨志田と一緒にいった最初の山行は「新人練成1次合宿」でして、それはまさにこのバカ尾根です。そうだ、「この鴨志田の追悼企画にはこの尾根を登るしかない」との我々有志の声に周子さんも快く賛同してくれて、更には娘の文ちゃんも一緒に行くと言ってくれました。ありがたい限りです。

追悼企画の報告は（前述の）津江のメールのとおりですが、「企画その②：飲み会」の場ではこの山行記録を皆に配布して、奥さんから幾つか当時の状況などを説明して貰ったことだけは、ここに追記させていただきます。

こうしてこの記録を見ると、人と自然をこよなく愛し、そして何よりも家族を大切にされた鴨志田が、我々に向けて残してくれた幾つものメッセージが含まれているのではないかと思います。改めて鴨志田に感謝です。

鴨志田岳志君の山行記録(データ)【平成20年～25年】

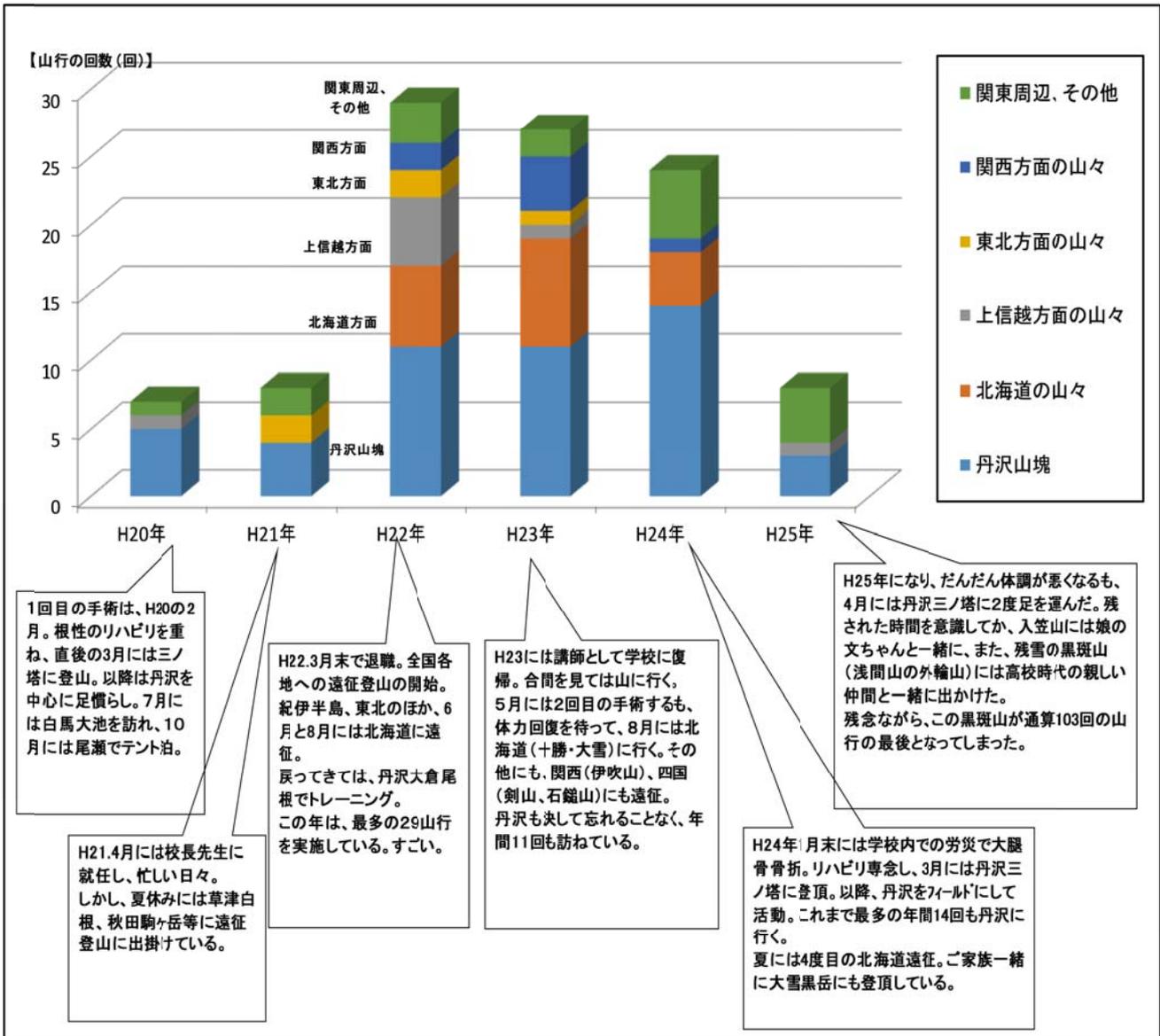


6年間で合計103回の山行を実行している。そのうち、約半数が丹沢山塊である。

丹沢山塊の内訳をみれば、圧倒的に塔ノ岳(大倉尾根)が多い。彼が、ここをトレーニングの場として、また体調のパロメータとしていたことが判る。

【図1】6年間の登山エリアと回数

【図2】6年間の丹沢山塊の山々とその回数



1回目の手術は、H20の2月。根性のリハビリを重ね、直後の3月には三ノ塔に登山。以降は丹沢を中心に足慣らし。7月には白馬大池を訪れ、10月には尾瀬でテント泊。

H21.4月には校長先生に就任し、忙しい日々。しかし、夏休みには草津白根、秋田駒ヶ岳等に遠征登山に出掛けている。

H22.3月末で退職。全国各地への遠征登山の開始。紀伊半島、東北のほか、6月と8月には北海道に遠征。戻ってきては、丹沢大倉尾根でトレーニング。この年は、最多の29山行を実施している。すごい。

H23には講師として学校に復帰。合間を見ては山に行く。5月には2回目の手術するも、体力回復を待って、8月には北海道(十勝・大雪)に行く。その他にも、関西(伊吹山)、四国(剣山、石鎚山)にも遠征。丹沢も決して忘れることなく、年間11回も訪ねている。

H24年1月末には学校内での労災で大腿骨骨折。リハビリ専念し、3月には丹沢三ノ塔に登頂。以降、丹沢をフィールドにして活動。これまで最多の年間14回も丹沢に行く。夏には4度目の北海道遠征。ご家族と一緒に大雪黒岳にも登頂している。

H25年になり、だんだん体調が悪くなるも、4月には丹沢三ノ塔に2度足を運んだ。残された時間を意識してか、入笠山には娘の文ちゃんと一緒に、また、残雪の黒斑山(浅間山の外輪山)には高校時代の親しい仲間と一緒に出かけた。残念ながら、この黒斑山が通算103回の山行の最後となってしまった。

【図3】6年間の登山の軌跡 / エリアと回数の推移